



















石巻復興きずな新聞舎

2017 年度 活動報告

2017.04.01~2018.03.31

******* ご挨拶

いつも石巻復興きずな新聞舎の活動に多大なるご支援を頂きまして、本当にありがとうございます。 2017年度の活動報告をお届けいたします。

「仮設きずな新聞」の活動に携わってくださっていた方々と共に、新団体「石巻復興きずな新聞舎」を立ち上げてから、早2年が経ちました。初めて取り組む団体の運営は、新聞を作ることよりもずっと難しく、苦しく、大変な作業でした。それでもこうして2年間続けて来られたのは、共に悩んでくれる仲間たち、そして活動面・資金面で多大なるご支援・ご協力をくださる多くの方々のおかげにほかなりません。心より感謝申し上げます。

2016 年度は活動報告書を作成していないため、今回の報告書が私たちの初めての報告書になります (会計報告は 2016 年度分も今回掲載しています)。私たちの活動をより知っていただく一助になれば 幸いです。

> 石巻復興きずな新聞舎 代表 岩元暁子

****** 活動報告 *****

2017年度は「1:石巻復興きずな新聞の発行」「2:石巻復興きずな新聞の配布」「3:市民ボランティアの育成」「4:県外ボランティアの受け入れ」「5:仮設住宅・復興公営住宅でのサロン活動、イベント開催」の5つの事業に取り組みました。それぞれ、事業内容と成果をご報告します。

【1】石巻復興きずな新聞の発行

く実施した事業内容>

「石巻復興きずな新聞」を発行する。市内各地域で活動する団体や専門家と協働し、医療・健康、地域づくり・街づくり、イベント情報等の記事を掲載。住民の自立や社会参画を促す紙面づくりを行なう。

〇発行回数:11回(月1回)

〇発行部数: 石巻市内にて各号 6,000 部十仙台五橋地区にて 5,500 部

〇記事構成(カッコ内は回数):

医療・健康(7)/心のケア(4)/地域包括ケア(4)/街なか(7)/防災・減災(4)/大川地区(5)/雄勝地区(5)/北上地区(6)/牡鹿地区(5)/イベント(10)/生活(1)/復興状況&読み物など(18)

<事業の成果>

新聞発行を通し、仮設住宅や復興公営住宅の住民の方々向けに情報発信を行なうことで、住民の自立や 社会参画を促進することを目的としています。

私たちは、メディアの使命を「世の中を変える」こと、すなわち「(読者の) 行動を変える」ことだと

考え、具体的なアクションに結びつくような情報発信を心がけています。例えば、街づくりに関する住民向けワークショップの告知記事を書く場合、日時や場所、内容といった基礎情報だけでなく、主催者の思いやそのワークショップに住民が参加する意義を核として、仮設住宅や復興公営住宅を一歩出て、足を運んでみたくなるような記事作成を目指しました。

実際、平成30年1月に行った読者アンケートでは、「石巻復興きずな新聞に掲載された記事や広告を見て、お店やイベントに行ったり、サービスを利用したり、健康法やレシピを試したことがありますか?」という質問に対し、約6割が「ある」と回答しました。情報発信による住民の自立促進、社会参画の機会創出、引きこもり防止に一定の効果があったと考えます。

また、河北新報の販売店である「河北仙販 五橋支店」様が、石巻復興きずな新聞を高く評価してくれ、 仙台市五橋地区において、きずな新聞を折り込みチラシの帯にして無料配布してくださっています (5,500 部)。震災後、仙台市内には宮城県沿岸地域出身の方が増え、石巻の様子を知りたいという声が 多いとのことです。同じ県内とはいえ、仙台と石巻とでは復興状況も異なるため、仙台にお住まいの方々 にも石巻のことを知っていただくことには意義深いと考えます。

このほか、高校生向けの小論文の添削講座を行なっている「株式会社さんぽう」様より、私たちの新聞記事(第 16 号掲載の「十五浜便り」)を小論文の課題文に使用したいというお申し出をいただきました(5,000 部発行)。この課題文を通して改めて震災や復興について高校生に考えてもらうため、課題文として選定したということです。リアルな復興の課題や現状を伝える記事として評価されたものと捉えています。



以下、平成30年1月実施の読者アンケートより、新聞に関する部分を抜粋して掲載します(原文ママ)。

●読者アンケートで寄せられた声●

◎私達、5年数ヶ月の仮設住宅にお世話になり、きずな新聞に情報や状況をお知らせいただき(知る事が 出来て)心強く思え、何か先が見える思いがありました。感謝します。いつまでも続いてほしいです。

◎毎月毎月本当にご苦労様です。発行するにあたり、大変でしょうね。感謝の気持ちでいっぱいです。私も入居して1年がすぎ、これまで勤めていた為、近所の方もわからずに過ごしていましたが、このきずな新聞が届くのが大変楽しめていました。無料で配達していただき、申し訳ありません。途中から集めて再読したりしますが、これからは毎月繰って集め遠く石巻から離れた友達に送ってあげます。本当に皆様の

努力に感謝いたします。

- ◎いつも心にしみる便りありがとうございます。市といっても外れの方なので、いろんな活躍の様子を拝見させていただいて心に残ります。復興もまだまだ時間がかかりますが、よろしくお願いします。
- ◎いつも楽しみにしています。ご尽力ありがとうございます。仮設にいると、他の仮設の様子や地域の様子がわかってとても重宝しています。時には石巻日々新聞や石巻かほくに負けない情報ばかりで驚いています。仮設にいる私には、きずな新聞があることでどれだけ励みになっていることか…ありがたいことこの上ないです。私が引っ越すには、もう少しかかります。あと少し、きずな新聞の皆様にはがんばってもらいたいです。よろしくお願いします。
- ◎私は、牡鹿半島の清水田と大原の現場に3年近く通っていますが、阿部和芳さんの記事は大変勉強になりました。
- ◎厳しい寒さの中スタッフの皆様ご苦労様です。訪問配布の方しか直接接する事はありませんが取材する方、執筆者、編集者、印刷者等々目にする事のないスタッフの方々にも大変感謝しております。石巻復興きずな新聞が長々続く事を祈ってやります。
- ◎毎月、配布に頂きありがたく感謝しております。簡単にできる高齢者向け、料理のレシピがのるのを楽しみにしています。寒さ厳しい折、皆様、風邪など召しませぬよう、御身お大事にお過ごし下さい。
- ◎毎号、内容が濃くて充実しているので読むのがとても楽しみです。黄色のペーパーなので、ポストの中でもパッと目立つし、見つけたしゅんかんうれしくなります。皆様のあたたかいご支援等、本当に感謝いたしております。
- ◎くらしている人の日常生活を全国の人にきちんと伝えることがとても大事です。記憶は記録しないと 風化し忘れられていくからです。私も紙面から生身の声を聞いて元気をもらいます。
- ◎仮設以来、いつも楽しみに読ませて頂いております。記事集めは大変と思いますが頑張って下さい。
- ◎いつも冒頭の記事にこちらが勇気付けられます。大川音頭や植樹祭等地域密着のレポートはイキイキとした情熱が通ってきます。そして読ませていただいたものも、イキイキしてきます。いつもありがとうございます。当地方も 2/28「はだか祭」がありました。(1250 年も続いています。)なんだか絆を引っ張っていただいたようです。ありがとう。
- ◎通常の読み物では生まれない関係性が生まれているきずな新聞、ボランティアさんや地元の協力者の もと、そうした絆が生まれているのでしょうか。新聞の内容も柔らかく、優しいものですが、手元に届く までがきずな新聞、価値はそこにもあるように思います。
- ◎各地区の様子がわかりとても嬉しいです。頑張っている様子が伝わってきます。昔すんだ記憶はハゼつり、つぶ拾い、山菜採り、白鳥見にいったこと、盆踊り、石巻の花火、北上川の夕日、山の上からみた綺麗な海、船で渡った対岸、同じ記憶をもっている人と話ができたら嬉しいですね。
- ◎継続して新聞を発行される努力は大変かと思いますが、楽しみにされている方も多いはず、どうかみなさま頑張って下さい。

【2】石巻復興きずな新聞の配布

く実施した事業内容>

スタッフやボランティアが直接訪問して新聞を配布する。手渡しで新聞を配布し、住民さんの声に耳を傾けることで、孤立を防ぐ見守り活動や心のケアを行なう。

〇配布件数:

市内仮設住宅約 1,000~2,000 世帯、復興住宅約 3,500~4,000 世帯

〇手渡し件数:

- •5月170件(仮設170、復興O)
- •6月150件(仮設150、復興O)
- •7月191件(仮設191、復興O)
- •8月382件(仮設228、復興154)
- 9月180件(仮設180、復興O)
- 10月142件(仮設142、復興O)
- •11月239件(仮設169、復興70)
- •12月222件(仮設157、復興65)
- 1月206件(仮設172、復興34)
- 2月170件(仮設86、復興84)
- 3月335件(仮設150、復興180)

合計(のべ) 2,387件(仮設 1,800、復興 587)



<事業の成果>

平成29年5月~平成30年3月まで、毎月1回『石巻復興きずな新聞』を発行し、約3週間かけて、市内の仮設住宅および市街地の復興公営住宅に配布を行ないました(計11回/各号6,000部)。毎月約200世帯に直接アプローチ(戸別訪問)を行なうことができ、年間を通して、のべ2,000世帯以上に直接アプローチしました。



以下、平成 30 年 1 月実施の読者アンケートより、ボランティアの訪問に関する部分を抜粋して掲載します(原文ママ)。

●読者アンケートで寄せられた声●

- ◎仮設のさみしい生活の時からお世話になってから 6 年以上、きずな新聞で励まされて来ました。私もあと何年、生きられるかわかりませんが、きずな新聞舎も長くつづきますよう願っています。いつもありがとうございます。
- ◎皆さんが明るい挨拶が出来ています。声がけも良く、住民の話題にも耳を傾けてくれています。編集長さんほか上司の方々の指導が良いのかな!!今後の躍進を希望します。
- ◎いつも感謝して居ります。自分達のくだらない話にも真剣に耳をかたむけて下さる姿勢に、ありがとうと言葉しかありません。震災から 7 年になりますが、語るのはいつも同じですが、ボランティアさんには、知ってもらいたい事なので…。いつも癒してくれてありがとうね!
- ◎復興きずな新聞発行にたずさわっている皆様はもちろんのこと、毎月遠くから多くの学生さん達が仮 設住宅まで届けて、いつもやさしい言葉をかけていただき、うれしいです。本当にいつもありがとうござ います。
- ◎仮設の時からこうして復興住宅まで配達してくださりありがとうございます。頭の下がる思いです。
- ◎病気で出歩くことが難しいので、せっかく届けてもらえるなら、たまに会って話がしたい。
- ◎寒い中、配布ありがとうございます。退屈しているので色んな話や大学の娘さんはやりたい気持ちが精 一杯ある様でうらやましいです。若いと挫折もあるのでしょうが乗り越え人生楽しんで下さい。
- ◎いつも留守がちで申し訳ありません。皆様の活動にとても頭が下がる思いです。どなたも県外からの支援でお越しいいただいてるようで。これからもう少し御支援頂ければと思います。
- ◎感謝の一言だけです。ありがとう。ありがとう。
- ◎皆様、世のため人のために身をささげ尽くしているのは頭が下がります。
- ◎人と人とのつながり無くして社会は成り立ちません。全国の支援者の皆様に感謝、感謝です。
- ◎寒い中、仮設回ってもらって有難い一方、県外から来ていただいている方に申し訳ない気持ちもあります。いつもありがとうございます。
- ◎手渡しで関わってほしい。毎月楽しみに待っています。やる気もなくなっているので、こころのケアの記事をお願いします。
- ◎毎月、本当に御苦労様です。感謝しかありません。どうぞお体に気をつけて、寒い中、カゼ等ひかれません様、どうもありがとうございました。

【3】市民ボランティアの育成

<実施した事業内容>

記事の執筆、新聞の印刷、仮設住宅への訪問・配布活動を地元の方々と共に行うことで、参加する人の「やりがい」を創出するほか、実際にその地域に住む人が新聞を配布することで地域支え合いの仕組みづくりに寄与する。

〇記事執筆:18人(42記事)

○新聞印刷:6人(日別のべ60人)

○新聞配布:47人(日別のべ315人)

〇うち、常連ボランティア(月3日以上参加): 日別のべ78人

<事業の成果>

これまで地元の方々には、一ボランティアとして新聞配布に携わっていだいていましたが、本年度はさらにステップアップし、県外からのボランティア受け入れ時のリーダー、オリエンテーションや振り返りの会の進行等、この活動のコアな部分をも担うことができる人材の育成に取り組みました。

社会人だけでなく、60歳を超えたシニア世代や主婦層など、社会との接点の比較的少ない方々にもボランティア活動に携わっていただくことで、生きがい・やりがい・社会参画機会を創出できたと考えます。これら市民ボランティアのなかには、仮設住宅への訪問活動を通して地域コミュニティの大切さに気付き、自身の地区の町内会活動に参加するようになった人もいます。

また、主に配布ボランティアのスキルアップのために、傾聴講座を開催しました(2日間/25名参加)。 傾聴スキルを学ぶことで、訪問先の住民に心を開いて話してもらえるようになるだけでなく、ボランティ ア自身のセルフケアにも効果があるといわれています。





* * *

以下に、活動に参加する地元ボランティアから寄せられた声を掲載します。

●地元ボランティアの声●

私は一昨年の2月まで河南地区の仮設前山団地に住んでいました。その時にボランティアさんが届けてくださった仮設きずな新聞を読んでいました。内容がとても充実していて、石巻の情報や、体調のお悩み相談等が掲載されていて、特にありがたかったのを今でも覚えています。私の住んでいる仮設団地は周りに何もなく、情報があまり入ってこなかったので、本当に助かりました。

私もきずな新聞を配布したいという思いが生まれたのは、私が仮設住宅から引越し、仮設住宅に住む人に少しでも力になりたいと思ったのがきっかけです。今、私はいろいろな市内の仮設住宅や復興住宅を回って、きずな新聞を配布しています。今、仮設住宅に住む人は徐々に減ってきましたが、復興住宅に入りたくても中には入れない人もいて、そこに温度差を感じています。

東日本大震災から 7 年が過ぎ、もう仮設に住むのが嫌だという住民さんの声を聞いたときの悲しそうな目を、いまだに忘れられません。まわりが復興住宅に引越していて、その焦りが出て、さらにストレスをためてしまい、精神的にきている、というのが今の状況です。私はきずな新聞を配るとき、「少しでも力になれれば」という思いで活動しています。新聞を配るとき、「ご苦労様!」と言われるときが、一番のやりがいです。

私が仮設に住んでいたとき、ボランティアさんが暑いときや寒いときに新聞を届けてくれた大変さを、 自分が活動してみて初めて分かりました。ボランティアさんが大事なことを教えてくれたので、私も住民 さんに伝えていきたいと活動して思います。

(30代•男性)

=====

配布ボランティアは人とのつながりを感じられ、配布後にはさわやかな充実感でいっぱいです。父の看病と介護などで最近なかなか活動に参加できていませんが、毎月もっと参加したいと思っています。

(50代•女性)

=====

私は毎月ボランティアで、復興住宅約200世帯に新聞配布をしています。夫と犬2匹と暮らしているので、犬の散歩がてら新聞を配っています。避難所にいるとき、支援物資で、衣服や食料などをたくさん頂いたので、感謝の気持ちと恩返しでやっています。これからもボランティア続けます。

(50代•女性)

【4】 県外ボランティアの受け入れ

く実施した事業内容>

県外からのボランティアの受け入れ、コーディネート、およびプチ被災地スタディツアーを実施することにより、石巻への来訪を促し、「石巻ファン」「石巻応援団」をつくる。

◎県外ボランティアの活動コーディネート

○回数:25回

〇対象: 県外の団体(企業・学校) および個人

〇人数:208人(日別のべ511人)

〇活動内容: 石巻復興きずな新聞の配布ボランティア、記者ボランティア、仮設住宅や復興公営住宅での

サロン活動、イベント開催、追悼行事のお手伝いなど

〇ボランティア向け簡易宿泊施設の宿泊者:のべ282人

◎プチ・被災地スタディツアー

○回数:12回 ○人数:115人

○連携団体:6団体、2個人

〇内容:街歩き(日和山、「がんばろう!石巻」看板など)、施設訪問(復興まちづくり情報交流館、石巻ニューゼなど)、震災映画鑑賞(東日本大震災 宮城・石巻沿岸部の記録、東日本大震災 あなたはあの日をどう伝えますか〜宮城・石巻地方沿岸部 3 年間の記録〜、石巻市立湊小学校避難所、Funakoshi)、語り部(東松島市野蒜地区など)





<事業の成果>

◎県外ボランティアの活動コーディネート

これまで、受け入れた県外ボランティアの活動は「石巻復興きずな新聞」の発行・配布に関わるものが ほとんどでしたが、本年度はそれに加え、市内で活動するさまざまな団体と連携して、サロン活動や仮設 住宅・復興公営住宅で行なわれるイベントなどでの活動もコーディネートしました。

仮設住宅や復興公営住宅を一軒一軒回り、自治会や団地会の役員とも連携しながら活動を続けてきたからこそ、ニーズに応じた効果的な活動(内容、広報など)をコーディネートできたと考えています。

担い手不足により効果的な活動が難しくなっている団体と連携することで、新たな拡がりをつくることもできました。新聞の取材を通して築いたさまざまな支援団体とのネットワークによって、受け入れ団体・ボランティア個人の双方にとってプラスになる活動をコーディネートすることができたと思います。また、事務所の移転にあわせて、県外ボランティアの簡易宿泊施設も整備しました。特に学生など若年層のボランティアからは、石巻を訪問しやすくなったという声が上がっています。

◎被災地ツアーのコーディネート

ボランティア参加者に対し、街歩き・施設訪問・語り部活動参加などからなる「被災地スタディツアー」を実施しました。震災当時の様子や震災の教訓、復興への取り組みを体系的に学ぶことで、新聞配布などの活動で住民から聞く体験談と合わせて、より多角的に被災地の現状や課題を知る機会を提供できたと考えます。

語り部プログラムは参加者の減少や育成に課題があります。「震災・学びの案内」を行なっている石巻 観光ボランティア協会様によると、震災5年の節目を超えた平成 28 年度から、同プログラムへの参加 希望者や問合せが激減しているといいます。また、東松島市で高校生による語り部のコーディネートを行 なっている鈴木貴之氏によると、「自分の体験を人に伝え、後世に教訓を伝えたい」という思いを持つ地 元の人は増えている一方で、需要が減っているために「語り部が育たない」という現状があるとのことで す。この被災地ツアーのコーディネートによって、語り部を実施する団体の持続可能性にも多少寄与する ことができました。

* * *

以下に、県外からのボランティア参加者からいただいた感想文を抜粋します(原文ママ)。県外からのボランティアが被災地を訪れ、何を感じたか、また、彼らの存在が住民の方々にどれだけ心の支えになっているかがわかります。

●県外からのボランティア参加者からの声●

今回初めてボランティアに参加しましたが、実際に現地に行ってみて初めて分かること、感じられることがたくさんあるのだなと思いました。きずな新聞を配りに行き、津波を経験した住民さんとお話するのはとても緊張しました。私が特に印象に残っているのは、一人の高齢の女性が「みんな復興住宅が当たってご近所さんがどんどんいなくなって寂しい」と話されていたことです。仮設住宅から人がいなくなっているのはとても良い事だと思いますが、残された住民さんは寂しさや焦りなどを毎日感じながら生活しているのだと思い、心にぐっとくるものがありました。

家に帰ってから家族に石巻で見たこと、実際に私が感じたことを話しました。家族は真剣に私の話を聞いてくれました。これからも石巻のことを忘れられないようにいろんな人に話していきたいと思います。

=====

きずな新聞のボランティアを通して、人との関わりはすごく大切だと改めて思いました。配布をし、お話しをして下さる方も多く、すごく感謝しています。

あの寒い中一人だったら諦めてしまう命も、周りに人がいたから声をかけ合い、生きている人もたくさんいることが分かりました。震災当時の話をしてくださる方もいて、「伝えないといけない」と思いました。「復興はこれから」と話してくださった方もいました。これから新しい家が決まり、近所との人間関係を作り、やっと安定した日常が戻ってくると言っていました。私もその通りだなと思いました。これから地域作りが始まり、人間関係を作っていくことが復興への第一歩だと思います。

今回のボランティアでは自分が成長出来たこと、これから成長しなければいけないことをたくさん教えて頂きました。人のために何かしてあげたいと参加したボランティアですが、私がたくさんのことを教えてもらいました。たくさんの方に感謝しています。ありがとうございました。

=====

新聞配りをして仮設住宅の方々と触れ合うと、みなさんとても温かく「暑いのに大変だね」と飲み物をくれたり、「来てくれてありがとう」と言ってくれたりしました。楽しそうにお孫さんやひ孫さんの話をする方もいれば、悲しそうに亡くなった家族の話をする人もいました。住宅の抽選がなかなか当たらず仮設住宅から出られない人もいました。周りがどんどん仮設住宅から出ていく中で不安やあせりを抱えている人に、私はなんて声を掛けてあげるのが正解か未だに分かりません。それでも、みなさん復興にむけて前を向いていました。私が助けに行ったつもりなのに私が助けられました。

私がこのボランティアで学んだことは、命の大切さ、前を向いて生きることの大切さ、災害の恐ろしさです。このことを、少しでも多くの人に伝えて後世に残していきたいです。2度と同じ過ちで多くの犠牲者を出さないように、悲しむ人が少しでも減るように。きっと、この東日本大震災の教訓を活かすことで今後防げることもあると思います。救える命もあると思います。だから私は伝えていきます。たくさんの人に、ここで学んだことを、またいつくるか分からない恐ろしい災害に備え私が出来ることをしていきます。



【5】仮設住宅・復興公営住宅でのサロン活動、イベント開催

く実施した事業内容>

仮設住宅の集約拠点団地、復興公営住宅の集会所でサロン活動やイベントを開催し、住民の孤立防止や コミュニティ形成に取り組む。

◎サロン&イベント開催

○回数:24回

○人数:のべ440人

〇内容:お茶っこ(お茶を飲みながらみんなでおしゃべり)、昔遊び、ダンス&歌のパフォーマンス、お

菓子作り、カラオケ、大道芸、フェイス・エクササイズ、みんなで歌おう、整体、蓮の花作り

○対象: 仮設住宅、復興公営住宅および近隣地域の住民



<事業の成果>

担い手として、訪問介護士の資格やコミュニティスペースのスタッフ経験を持つ地元の方をパートタイムで新規雇用し、ボランティアのコーディネートを行なうことで、ボランティアの「質」の向上を実現しました。また「(ボランティアさんがいるから)集会所に行く」ではなく、住民同士でコミュニティ形成の場づくりができる状態を目指して、団地の課題やニーズに合わせて柔軟に活動してきました。

私たちがサロン活動を始めるまで、「一度も集会所を開けたことがなかった」という三ツ股第二復興住宅(約200世帯)では、当初、お湯を沸かすポットや急須・湯香はもちろん、集会所内に時計もない状態でしたが、お茶会を重ねるうちに「ポットも買わなくちゃないね」「時計がないとやっぱり不便だわ」と住民から声が上がり、団地会で購入することになりました。始めは恐る恐る集会所の扉を開けて入ってきて、机の端と端に離れて座っていた方々も、徐々に打ち解け、最近では来た順番に隣同士に座るようになったり、ご近所さんを誘って来たりするようになりました。また、活動開始当初は、私たちボランティア=ホスト、住民=ゲストという雰囲気でしたが、最近では準備や片付けを手伝ってくれる方も出てきま

した。まだ、お茶会を団地の方自身が「主催する」ところまでは実現できていませんが、少しずつ、「自分たちの集会所」「自分たちのお茶会」に近づきつつあると感じます。また、地元の団体である「たんぽぽ会」様や「吉野町復興住宅美女の会」様と協力して、ダンスを披露したりもしました。地元団体の活躍の場、社会貢献の場づくりにつながると共に、復興住宅の住民の方々にも「地元でがんばっている人がいる」ことが大きな刺激になったようでした。

すでに自分たちでお茶会を開催していた湊復興住宅、門脇西復興住宅、中央第三復興住宅などでは、単なるお茶会ではなく「大道芸パフォーマンス」「フェイス・エクササイズ」「蓮の花づくりワークショップ」「整体&お茶会」などのイベントを開催しました。普段のお茶会では参加者が固定化されがちですが、内容を変えることで、普段なかなか参加できない方が参加するようになりました。団地会の会長や世話人にも大変感謝されています。またこれらの団地では、お茶やコーヒーを住民が用意できるので、私たちボランティアは「お茶を出してもらう」役に回りました。住民の方々が「ああでもない、こうでもない」と相談しながら、私たちボランティアを「もてなそう」としてくださるのは、それはそれでコミュニティ形成の一助になっていると感じました。

どこの団地でも、お茶会では入り口で名札を書いてもらいました。そうすることで、自然と住民同士も名前を呼び合い、距離がぐんと縮まったと思います。また複数棟ある復興住宅などでは、名前の上に棟番号も書いてもらいました。「誰がどこに住んでいるのか分からない」という声を聞いたためです。棟を書いてもらうことで、「あら、奥さん同じ棟なのね。何階?何号室?」などの話になり、「今度一緒に~~に行きましょう」「今度~~に行くとき声かけるわね」など自然と話が盛り上がっていました。

活動に参加するボランティアとは、ひとりでぽつんとしている方に声を掛けたり、みんなの輪の中に入れるように促したり、耳が遠くてみんなの会話についていけない方がいたら、隣に座ってさりげなく通訳したり、といったことを毎回共有して、活動に臨みました。その結果、住民の方々からは「はじめはひとりで不安だったけれど、とても楽しかった!」「きずな新聞さんのお茶会が、毎月の楽しみ」という声を多数いただきました。



******* 会計報告 *****

●収入の部

科目	摘要	2016年度	2017年度
前年度繰越金		0	1,558,111
寄付金	寄付金、クラウドファンディング	1,855,086	731,434
助成金	2016年度…心の復興(宮城県)、地域コーディネート(石巻市) 2017年度…みやぎ地域(宮城県)、心の復興(宮城県)、LUSH JAPAN	4,433,839	6,680,000
活動協力金	ボランティア参加者からの活動協力金、広告協賛金	542,820	602,000
会費	賛助会員会費	20,000	839,000
雑収入	受取利子、原子力立地給付金など	3	4,920
当期収入合計		6,851,748	8,857,354
収入合計		6,851,748	10,415,465

●支出の部

科目	摘要	2016年度	2017年度
人件費	スタッフ人件費、預り金所得税	3,018,196	4,275,411
旅費交通費	レンタカー代、ガソリン代、地元ボランティアの交通費補助、県 外リピーターボランティアへの交通費補助、スタッフ交通費	1,066,923	1,017,560
印刷製本費	新聞印刷、チラシ印刷、パンフレット印刷など	94,570	109,277
賃借料	事務所家賃、初期費用、引落手数料、レンタルサーバー代	228,100	708,710
水道光熱費	事務所水道光熱費	14,000	129,869
保険料	事務所火災保険	0	30,000
会議費	地元ボランティアのお弁当代、ボランティアMTG	73,599	19,015
通信運搬費	携帯電話、インターネット、郵送費など	130,315	148,389
消耗品費	宿泊拠点備品、事務用品など	348,746	373,778
備品費	宿泊拠点用の家具、家電など	0	299,180
研修費	傾聴講座、ホームページ作成講座など	141,600	21,792
支払手数料	振込手数料、謝金、ドメイン登録料など	22,125	22,295
交際費	宿泊拠点のご近所さん向けギフト購入など	8,195	16,044
広告宣伝費	クラウドファンディングリターン、パンフデザイン	147,108	0
図書資料費		160	2,700
支出合計		5,293,637	7,174,020

●収支

	2016年度	2017年度
収入合計	6,851,748	10,415,465
支出合計	5,293,637	7,174,020
収支	1,558,111	3,241,445

(単位:円)

●メディアでの紹介●

- ◇8/8 石巻かほく「"未来の石巻"を提言 小中学生、フォーラムで熱く夢語る」
- ◇8/24NHK「あの日 わたしは~証言記録 東日本大震災~『宮城県石巻市 岩元暁子さん』」
- ◇8/24 石巻日日新聞「みんなの情報掲示板~NPO 日和~『仮設住宅に、元気と笑顔を届ける新聞―石巻復興きずな新聞舎』」
- ◇9/14 河北新報「民泊もてなし移住者視点で~取材で知った石巻伝えたい~」
- ◇9/19 河北新報「河北春秋」
- ◇12/20 地域支え合い情報 vol.64「特集:伝えることは、つながること」にて、「『心を込めた手紙』をあなたへ一仮設住宅全戸に、新聞を届ける一石巻復興きずな新聞舎(宮城県石巻市)」
- ◇3/5 毎日新聞「被災者に寄り添い、仮設消える日まで~石巻復興きずな新聞~」

●講演など●

- ◇6/27 石巻専修大学「復興ボランティア学」登壇(主催:石巻専修大学/於:石巻専修大学)
- ◇7/29 講演「東日本大震災から6年〜仮設住宅での長期支援の現場から災害後の暮らしと課題を考える」(主催:東日本大震災の教訓を安城に伝える会/於:愛知県安城市アンフォーレ)
- ◇8/5「子どもの未来づくりフォーラム」にて、講演「ボランティアは誰のため?地域の課題を自分事へ」(主催: 石巻市教育委員会/於: 桃生公民館ホール)
- ◇8/24 浦和学院高校国際類型コース・サマースクールにて、授業「災害ボランティアの活動の変遷と現在の石巻の課題」(主催:浦和学院高校/於:石巻専修大学 4102 教室)
- ◇9/16 中高生を対象にした人間力育成塾「耕人塾」登壇(主催:耕人塾/於:川の上・百俵館)
- ◇11/26 石巻専修大学「キャリア設計」登壇(主催:石巻専修大学/於:石巻専修大学)
- ◇3/15 石巻市立青葉中学校「立志のつどい」登壇(主催:青葉中学校/於:青葉中学校)

●ご協力いただいた企業・団体●

個人の方々からもたくさんのご支援・ご協力をいただきました。個人情報の観点からお名前のご紹介は控え させていただきますが、お一人おひとりの皆様に心より感謝申し上げます。

石巻専修大学関根ゼミ/ユースサポートカレッジ・石巻 NOTE/石巻・川の上プロジェクト/一般社団法人サードステージ/一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎ/石巻市包括ケアセンター/一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター/一般社団法人ゆいいきる/株式会社街づくりまんぼう/民宿めぐろ/浦和学院高校/武蔵野大学/いしのまっきー募金/あつまり処わのや/asaco caco/マジカルパフォーマータップリン/なないろの手/古川中学校/京都光華女子大学/カフェ・ギャラリーリンデン/アドラー心理学セミナーfor CDA&CC 事務局/おらほの家プロジェクト/石巻復興まちづくり情報交流館/石巻NEWSEE/日和山体操の皆さん/TSUNAGU Teenager Tourguide of NOBIRU/NPO法人こども∞感ばに一/河北仙販五橋支店/一般社団法人カーシェアリング協会/アディエント合同会社/ワールドおにぎりフレンズプロジェクト/復興支縁むすび/吉野町復興住宅美女の会/たんぽぽ会/東日本大震災の教訓を安城に伝える会/いしのまき震災と地域再生・未来を語り広める会

(順不同・敬称略)



・・・・・・・・・・・・・活動資金へのご協力のお願い

.

私たちの活動は、皆さまからのご寄付で賄われています。 温かいご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行818店普3864748石巻復興きずな新聞舎郵便振替02220-0-141408石巻復興きずな新聞舎

賛助会員募集

石巻復興きずな新聞舎の活動を積極的にご支援いただける個人・企業・団体を募集しています。 会員の皆様からいただく会費は、団体運営の基盤となります。 ぜひご協力をお願いいたします。

■個人会員(購読あり)5,000円/年×1□以上■個人会員(購読なし)3,000円/年×1□以上■団体会員10,000円/年×1□以上

石巻復興きずな新聞舎

〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り 1-5-3 Tel 090-6686-8317/Fax 050-3488-1702